



傳不習乎（論語・学而）

習わざるを伝うるか

自戒のことばにしたいと思います。

岡崎市小中学校長会会長

神尾菊平

昭和四十九年六月十日

編集／発行

岡崎市教育委員会

研文印刷社

田口 城一

私が三島尋常小学校（上六名町）に入學したのは大正五年（一九一六）の春である。大正天皇の即位が四年で、第一次世界大戦の最中であつた。

当時の三島小学校の学区は、六名全域に明大寺、久後崎、今御堂、天白に及んでいて、生徒の大半は農家の子女だつた。通学はもちろん着物で、帯を締めただけ、カバンを肩にかけ、雨の降る日など裸足で来る子供もあつた。袴をはくのは式の日だけである。

その頃の子供は鼻水を垂らすものが多く、それを両袖で拭うので、その個所が黒光りに光っているのが珍しくなかつた。だから、雨の日など教室中に悪臭が漂うのが普通だつた。

先生も五つボタンのツメ襟で、巡査のように徽章をつけた帽子をかぶり、弁当の風呂敷包をもって登校するのがごく一般的な姿だつた。

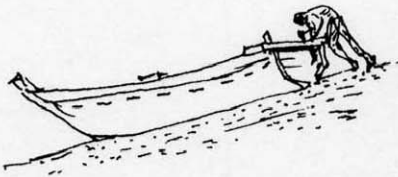
一年生が二組で、七、八十人くらいだから学校の規模も小さい。

私は五年を修了すると上京して、東京の小学校に転校したが、四、五年の頃から岡崎の教育界に大きい変化があつたやうな気がする。若い先生の赴任から、何となく新風が吹き込まれて来た。

セビロを着て、金縁眼鏡をかけた先生が現われた。この先生は旧来の学芸会の

ハタ・タコ
コマ・マメ

の頃



様式を大きく変えてしまった。唱歌をうたつたり、教科書を暗記して聞かせたり、皆の前で習字をしてみせるようなものではなく、男女の生徒が共演する児童劇を始めた。ボール紙に各種の色チョークを使って画を描き、それを劇のバックにして情景を出すのが、いかにも子供心に新鮮な感じを与えた。

今なお健在の石川かつ（旧姓谷崎）先生などは、女教師も体操を教えずにはならぬと言って、自ら女の体操服を考案して、運動靴をはいて颯爽と運動場に現われて校内の眼をみはらせたが、考えてみればこれも画期的な事件だつた。

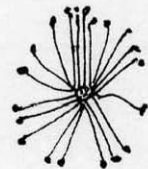
ある先生は前述の愛知県指定の小学校訓導の服装を無視して、いつもツメ襟にソフト帽をかぶって登校した。先生は文部省指定の図画の教科書など使わせなかつた。図画はすべて実物の写生である。色鉛筆でも水彩でも自由に使わせた。

こうした新しい風が、従来の古い先生達に快いものでなかつたのは当然である。私が東京に転校してから、校長先生が市内某料亭の宴会の席で、彼等男の先生達に袋たたきに遭つたことを聞いた。

その中の一人はかつての私の恩師だつた。

私にはこの事件の真相がわからないが、彼等新進の教師達も怨恨の前には古い型の人間でしかなかった。一夜にしてこれ等の意欲的な教育者達は岡崎の教育界からその姿を消して行つた。

教育実習



いまはむかし

・この道ひとすじに

昭和六、七年頃の教育実習は、明るくなれば田畑へ行き、暗くなれば家路につき百姓ぐらしによく似ていた。

師範の学生は、先生になることを義務づけられていた。また、師範で、あらかじめ教科教育法など現場で直面する問題を徹底的にたたきこまれていたから、教生としての気構えも充分だつたという。授業や子どもとの触れ合いにも、時間を超越し、理屈抜きに精魂を傾けた。当時はこうした教師像を期待されていたとも言える。

・戦争の谷間で

国をあげ、戦時一色にぬりつぶされていた頃。師範の学生は、いわゆる学徒動員として軍需生産の一翼になつていったが、それでも教育実習は続けられた。実習中にも、ひとりふたりと同級生が召集されていく。この道を選んだものの、再び教壇に立てるとは思えない。最後の仕事教育実習だというせつぱつまつた気持ち強かった。燈火管制がしかれ、

ある日のT子

原田きぬ糸

月曜日になると保健室にくる子、なぜか教室へはいれない子、無口でひとりぼっちの子など、心身に問題のある子が目立つ。

ある朝、五年のT子が友だちに連れられてきた。見るといつものT子ではなく、両手を胸のあたりにかまえ、おぼけよろしく震えている。震えはいっそうひどくなり、次に頭をかきむしりながらワァワァ泣く。少し落ちついてから事情を聞く



どう、きょうのようすは？ 健康観察板 矢西小



ぼくじょうずにみがけたよ 秦梨小

たら、目の前で寺の戸が閉められたという。それが異常な恐怖心となったようだ。「あれはしめてはいかん。」と何度も繰り返している。生まれて間もなく母親と死別し、現在も複雑な家庭環境にあるT子は、知能も低く、いつもひとりぼっちで無表情である。T子のこんな状態は見ることがないので、ことのほか驚いた心のしずまるようにいろいろ話をした。

翌日、担任や友だちに支えられて、元気にクラブ活動をしているT子を見つけ、ホッとしました。「T子さん」という声に「しえんしえい」という声が返ってきた。

(矢西小)

気になる欠席

大須賀紀子

「おはよう」「おはよっ！」校内に入ると元気な声があちこちの教室から私を追いかけてくる。今日もみんな元気で登校したかな。一〇名の秦梨つ子が全員そろうとほっとする私。

ところが、おとといはN・M、きのうはT・F、今日はKと、このところ欠席者が目立つ。

三時間目、四年生のTが、

「先生、ズボンが破れちゃった。早く縫って」とかけこんできた。

「T君、きのうどうして休んだ。」

「歯いしやへ行ったんだ。」

「それで……。」

と私の矢つき早の質問をうるさそうに、「早く早く」とせかせて出て行く。

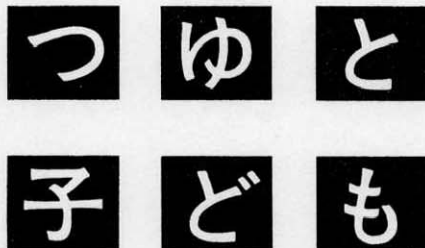
やっぱり N・M・F・Kも歯いしや通いで欠席だ。

むしばになるまいと一生懸命給食後の歯みがきをしている子や、治療する子らを見ていると、思いつきや無計画で児童を動かすことはできないと、責任の重大さを感じる。

(秦梨小)



廊下の湿気をとる保健委員 南中



養護教諭の一日



「先生、今日注射するの。」「耳の検査だつて。」「どんな音するんかな。」「きこえた、きこえた。チーって音、プーって音もするよ。」「おつもしろいぞ。」「おれも早くやりたいな。」こんな子ども達に囲まれた毎日。同じ年代層の世界から、一転して、上は50代から下は6歳までの世界へ入って早一か月。あれもしたい、これもしたいと胸ふくらませていたのも束の間、仕事に追われ、ふり返る

養護教諭になって 1か月

奥村 陽子

暇もなく、いざ仕事一つするにしても何から手をつけたらよいかわからない。満足にできない。そんな自分をはがゆく無能であることにいや気がさし、時には学校で一人だけという養護教諭の寂しさを感じ、理想と現実とのくい違いに(学校において養護教とはいったい何なのか)と考えずにはおれないこともあった。

同じ教師のつもりでいながら、専門性の違いからくるものか。いや、養教にしろ担任にしろ目ざす大きな目標は同じなのだ。もっと自分が強くならなくては、もっと大きな目でみなくては、こんなことも思った。そして今は担任の仕事をも理解し、養教のもつ職務の重大さを考え、子どもがどうしたらより健康にたくましく育つていってくれるか真剣に考えつづけている。

(六名小)

今年、給食指導の一環として、「ランチタイム」を計画している。講堂をランチルームにし、卓球台にカバーをかけ、美しい音楽を聞き、生徒会行事のビデオテレビを見ながら、全校生徒一〇八名と全職員が一堂に会して、給食を共にしようという計画である。これは小規模校である香山中の特性を生かす計画でもある。

昨年は、女子の伸長優秀校、よい歯の学校表彰を受けた。これを機会に、ひとりひとりの生徒が最大限に伸びてくれることを祈ってやまない。

(香山中)

三時限が終わった。駆け込むようにして来た二年生のAさん。心配そうに、「ほおにできているものはなんですか。うつりますか。」と、口早に聞く。どうやらハタケらしい。「つゆ時には、カビのつく皮膚病もあり、見わけにくいから、身のまわりも清潔にするのよ。」と、教えて帰す。

ここ三日、欠席が目立ち、病気の訴えも多い。発育盛りの中学生は、気候に敏感である。

(南中)



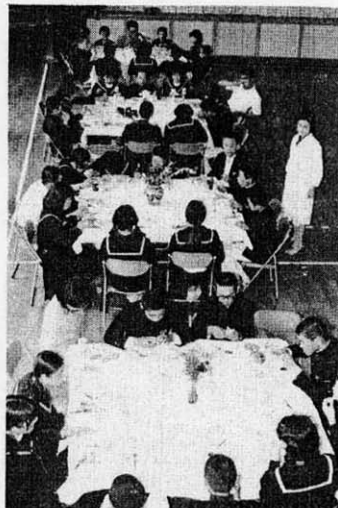
いたい? どうしたの?

六名小

保健メモ

榊原 雅子

浅緑から深緑へ、村積山は六月の陽光に映えて心を楽しませてくれる。そのふもとに一〇八名の健児が夢と希望にもえ



楽しいランチタイム

香山中

て学んでいる。「公害の無い学校」、こんな誇りを生徒のひとりひとりが自覚し、「近視をなくそう」、「歯撲滅運動」、「健康診断板の活用」、「学校のオアシス保健室づくり」等の活動をしている。

昨年より、保健機関紙「からだ」を発刊している。その内容は、給食一口知識からだのはなし、保健だより等だが、保健記録として残している。

梅雨時の生徒

西浦とし子

今日も雨、始業の合図によって騒々しさが一瞬に消え、といを伝わる水の音が聞こえるほどになる。窓越しに見える校庭は、青葉の緑があざやかに美しい。

突然「すべるぞー!」。「気をつけろー!」の大声に、とつさに廊下へ出てみる。幸い、ころんだ者はいないのでホットする。渡りへの出入口は、滑り止めのぞうきんが並べられ、しつとりぬれている。絞って並べなおす。二日も雨降りが続くと、ビーター張りの廊下は、三階まで湿りをおびてくる。こんな日は、けがをしなればよいがと気をもむ。

ことばが
魂をつくる

岡崎童話研究会の活動

昨年五月、全国童話人協会の総会が岡崎女子短大で開催された。これに市内の有志が多数参加し、深い感銘を受けたのを機会に機運が高まり、本会が誕生した。外山滋比古氏もいつておられるように、「ことばが魂をつくる」のであり、よい童話は子どもの成長にとって必要欠くべからざるものである。

わたしたちはこのような考えで、童話を中心とした新しい児童文化の創造を夢見て、多くの若い先生方を中心に活動している。

総会では、CBCの加藤放送部長のお話を聞き、「ことば」「話すこと」をだいにじにするこの意味を再認識させられた。

夏休みには、小学校、幼稚園などで、童話の実演会。目を輝かせて、くい入るように聞いているのを見ると、これがテレビっ子かと疑いたくなるくらい。自由に想像できる童話の力というものを改めて知った。また、歌唱指導、ゲーム指導などもまじえ、子どもの扱い方、子どもへの話し方の研修などをした。

また、その道の大家も呼んで、紙芝居

の研究もした。たかが紙芝居と思う人もあるかもしれないが、どうしてどうして、実に深いもののあることを発見した。これがうまくこなせるようになれば、教室における話し方は合格かもしれない。

その他、布人形の製作も試みた。さっそく教室で使ってみると、効果百パーセント。小さな人形ひとつで、四十人の子どもの表情が、がぜん生き返るのである。

実演とか製作とかいうのは、一ばん役に立って一ばん楽しいものである。幸いに好評であったので、今後もこれを中心に活動を進めていくことになろう。

もうひとつ、童話を授業にどう生かすか、というのも、これからの研究課題である。

最後に、わたしたちは既成のものを子どもに与えるだけでなく、郷土の児童文化を創り出したいと大それたことを考えていることを付記する。(井田小 佐野寛海)

植物メモ

芝

校庭緑化がすすめられ、盛んに芝が植えられている。同じようにみえる芝にも大

別して、日本芝と西洋芝とがある。

多くは、テフトン(四)と呼ばれる西洋品種が使われているようである。

芝は、あまりのびすぎるといけないので、こまめに刈りこむことと、排水、風通し、日当たりのよさが成育の条件とされている。なお、砂分の多い目土をかけることも栽培のひとつのコツといわれている。

ある経験

小林加代子

授業を始めると、決まって「先生、おしっこ」と、席を立つN君。

教室を一步出たら、糸の切れた風、どこかへ飛んで行った。

我慢できなくなったある日「絶対許してあげないから、したくなったら、そこです」と、きめつける。十月半ば、もらしても寒くないことを計算に入れて……十分ほど足を、こしやこしやりだしたが見ぬ振りて授業を進める。「やった」の叫び声に、N君の足下を見ると湖の出現。一瞬、酷なことを思いが胸に広がったが、「これで始末しなさい」と、一枚の新聞紙を渡し、また、授業を続ける。

どうするか。時折りN君に目をやる。暫く湖を眺めていたが、そのうち新聞紙半分を、こまごまにちぎって湖にまいた。ちぎった紙がそれを、すいあげたころ、残りの半分で、すっぽり包みこんだ。二年生の生活の知恵であろうか。

次の日から「先生、おしっこ」の声を全く聞かなくなった。(矢南小) 十数年前のことである。(矢南小)

かがみ

二年目

星野 孝子

去年は子どもとの会話でとまどいを感ずることが多かった。今年は彼らのことばや、見るテレビ番組がわかってきた。

この間の授業にも、ある住宅のコーナーシャルソングの合唱が登場した。「文の終わりはそろえて書くんだよ。〇〇だった。〇〇である。〇〇です。〇〇ますとそろえて書くといイノデアリマス。」

と私が節をつけて歌うと、「わかった。先生、〇〇〇〇〇〇住宅だから。」

「うん。だけど三の子が歌う時は、ミンナキヲツケマシヨウとしようね。ちよつと歌ってみようか。」
「文の終わりはそろえます。ミンナキヲツケマシヨウ。」
「やった。」

T君がさげんだ。子どもを知るための手がかりの一つが会話だと思ふ。二年目。この手がかりをもとに、もっと子どもを理解したい。(矢北小)





教育実習生34校で受入れ

愛教大、県内大、短大等の教育実習がこども六月と十月にそれぞれ二、四週間にわたって実施される。

期間中に市内小中では約二百三十余名を受入れるが、こどもは特に、これまでのような中央部の数校に限った受入れをやめ、中学校の全校と二十の小学校とで数名ずつ分担して受入れる。実習生も受入れ校もせつかくの機会を更りの多い期間にしたいもの。第一期実習の始まる六月三日からは、市内の多くの学校で「教生先生」がさまざまな話題をふりまくことだろう。実習期間等は次のとおり。

- 副免実習（6月3日～15日、2週間） 〓 甲山ほか8中学校。
- 主免実習（10月7日～11月2日、4週間） 〓 男川ほか15小学校。

- 〔寄贈研究物・資料等〕
- ◇授業実践の記録―関数的な見方・考え方を伸ばす授業の展開 奥殿小現職教育部
- ◇学校図書館利用指導案 藤川小図書館部
- ◇文集もとじゆく第7号 本宿小学校

- ◇文集山中第6号 山中小学校
- ◇読書指導―一年の歩み―
- ◇読書感想文集「本を読んで」 低・中・高学年編各第一集 いずれも矢作西小学校
- ◇現職教育シリーズ3 南中春秋―特集特別活動日― 南中学校
- ◇甲山教育―12か月の計画と実践― 49年度版 甲山中学校

校。○小学校養護実習（6月3日～22日、3週間） 〓 美合ほか2小学校。

○中学校養護実習（主免実習と同じ） 〓 甲山ほか2中学校。

〔県立大・私大・短大〕

○第一期実習（6月3日～15日2週間） 〓 広幡ほか2小学校と南中ほか10校。○第二期実習（10月7日～19日、2週間） 〓 羽根ほか2校と中学校全校。

■井田小の緑化日本一に

緑化宣言都市岡崎に昨年の城北中に続き、またも学校環境緑化日本一が誕生した。

五月十九日若手県八幡平での全国植樹祭の席上、文部・農林大臣賞に輝いた井田小学校がそれで、改めて同校の学校ぐるみの成果が話題になっている。

同校の校地一万五千坪は、市内では最大規模のものだが、その三分の一は緑化が進み、特に林の中に点在する野外教室、キャンプ場、落ち葉スキー場、野外ステーション等々自然を生かした創意のある施設が多い。受賞後もさらに、好ましい教育環境の整備をめざしているので市内外から注目されている。

■学校緑化委員会活動始まる

昨年度末に発足した学校緑化委員会が六月四日の「さし木講習会」を皮切りに、全市にわたる活動をはじめ。

消極的な環境汚染防止の姿勢から積極的な環境づくりへというわけだが、さし木育苗の実践活動、それが児童生徒の自然愛護の心の育成につながり、あわせて環境緑化に役立てばと係では張切っている。

なお、各校の計画によれば本年度内に合わせて約十五万四千本の育苗が予定されている。

●岡崎の児童・生徒数・教職員数等の実態

49・5・1 学校基本調査より

区 分	学校名	学 級 数 ()内特殊	児 童・生 徒 数			校 長・教 員 数 常勤講師を含む			養 教 職 員		事 務 職 員	
			計	男	女	計	男	女	教諭	婦	県	市
小 学 校	34	579 (24)	20,540	10,462	10,078	705	404	301	25	10	31	27
中 学 校	14	231 (11)	9,042	4,589	4,453	383	307	76	9	5	15	9
(合 計)	48	810 (35)	29,582	15,051	14,531	1,088	711	377	34	15	46	36

○学年別児童・生徒数

小 学 校				中 学 校			
学年	男	女	計	学年	男	女	計
1年	2020	1936	3956	4年	1731	1729	3460
2年	1566	1582	3148	5年	1671	1579	3250
3年	1786	1678	3464	6年	1668	1594	3262

○学級・学校の規模

	小学校	中学校
1校当たり児童生徒数	604人	646人
1校当たり学級数	17学級	17学級
1学級当たり児童生徒数	35.5人	39.2人

6月の行事

日	曜	行	事
1	土	童話研究会 (婦人会館)	
2	日	中学校総合体育大会	
3	月	前期教育実習開始(15日まで)児童・生徒検便(11日まで)	
4	火	ブロック別さし木実技講習会 (7日まで) 付属岡崎小学校研究発表会 (5日まで)	
5	水	第2回岡崎市民美術展 (9日まで)	
6	木	教職員研修に関する委員会 (市役所)	
7	金	県学習指導地区別連絡協議会(社・道) 市PTA連絡協議会 総会 (連尺小) 教務主任研修会 (矢作北小)	
8	土		
9	日	市民フォークダンスの集い(公園河川敷) 岡崎・額田地区中学軟式庭球 大会 (県営グラウンド) 軟式野球市民選手権大会 (公園)	
10	月	海外研修者懇談会 (婦人会館)	
11	火	新任教員研修会 (婦人会館)	
12	水	県教委学校訪問 (矢作東) 中学校体育実技研修 (ホール 運動・連尺) 校務主任研修会 (六ツ美南小)	
13	木	市指導主事学校訪問 (香山中) 教育委員会	
14	金	VTR学校別講習会指導者講習会 (竜海)	
15	土	矢作中起工式・岩小体育館起工式	
16	日	ダブルス卓球大会 (市民体育館) 夏季一般男女軟式庭球大会 (公園)	
17	月	49年度研究委嘱校打合せ会 (市役所)	
18	火	新任教員研修会(美川中) 県学校給食主任者研修会	
19	水	定例校長会	
20	木	教育委員学校訪問 (根石・南中) 西三河視聴覚ライブラリ 一連絡協議会総会 (巽閣)	
21	金	校長会・組合共催講演会(講師・上山春平先生・勤労会館)	
22	土	矢西小起工式	
23	日		
24	月	プール衛生管理指導(28日まで) V↑R学校別講習会	
25	火	新任教員研修会 (三島小) 教育文化大学講座運営委員会 (婦人会館)	
26	水	岩津中学校研究発表会	
27	木	市指導主事学校訪問(梅園)VTR学校別講習会	
28	金	学校保健会総会 (医師会館)	
29	土	健康優良児童書類締め切り	
30	日	第2回岡崎市青年議会 (市議場)	

- 表紙写真 金山 幸義(愛宕小長)
- カット 伊藤 清(根石小)



本はどう読むか

清水幾太郎

講談社文庫

230円

「読書とは書物と交際することである」
「読書は蕎麦を食う要領で一気に読んだ方がよいようである」

著者のことばの通り、私は相当のスピードでこの書物を読んでしまったのだった。あっさりとしたおつき合いのはずだったのに、とても深いつながりを感じている。

小冊子ではあるが、またしても読書と人生の切っても切れない縁を再発見したようである。

(連尺小 稲垣清子)

ぼくらの太平洋戦争

本多公栄著

鳩の森書房

950円

太平洋戦争学習の実践記録である。実践の不十分さを映し出すような文章があっても、勇気をもって子どもたちの乱反射ぶりを全公開している。子どもたちの多様な屈折した認識をふまえて実践しようとする著者の姿勢にうたれる。また、学習をふまえて書いた「アジアの中学生の友への手紙」をもって大使館まわりをして実態調査をしたり、文集づくりをする中学生たちの真剣な姿に、一人歩きを学習を身につけたもののすばらしさを見る。

(東海中 柴田敏希)

寸言

▼編集が変集でなければいいが、とても危惧の念を抱きつつはや十三号。
▼集まった原稿、忙しい中、一字一字精魂こめられ、頭の下がる思い。
▼反面、どうしても意味のわかりかねるものもある。編集子一同頭をかかえるがどうしてもわからず、深夜の電話となる。
▼ともあれ、刷り上がったものを見て、一喜一憂、配られて返ってくる声を楽しみなもの。

童話かなしき梅雨となりけり

相馬 遷子